WASON
HQ
1104
J74+

明治十九年九月十五日發行

女學雜誌

每月三回發兌
一冊正價五錢
一ヶ月十五錢

第三十五號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 35.

第參拾五號

EDITORIAL: Prohibition of the professional prostitutes.

LEADING ARTICLES: Woman's Self-respect.
By Rev. Mr. M. Uyemura.

Books and Reading (concluded).
By Rev. K. Kimura, M.A.

MISCELANIES: Home Department; Hints for Married life: No. III.

CRITICISM: Mr. M. Oshima's "On the Evils of Japanese Marriage (Nihon konnin no heigai); Mr. Z. Sasakawa's "Nursing the sick" (Kwanbyo no kokoroe).

BIOGRAPHIES: Life of Mrs. Kimura; Baikō-Joshi: No, XV.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISMENT.

●社說　妓樓全廢すべし

●叢話　いへのとも(十則)○夫婦の心得第三回(二則)

●論說　女子宜く自尊すべし(植村正久君)讀書の要を論ず(木村熊二君)

●批評　大島盛造君の日本婚姻之弊害○笹川純一君の看病の心得

●佳傳　木村とう子の傳其二○梅香女史の傳第十五續

●寄書　美術及其要領(服部甲子造)○一夫一婦の說(長榮女學校生徒某)

●新報　十則

●廣告

○代り合まして替り生も致しませんが何ぞ一席の御笑草さて何を申上ませうやと存じますれど茲に昔し支那と云ふ國に孔子とて名高い聖人がありました或日弟子の主なる面々を引連れて田圃道を運動されると農家の小舎から馬がひよつと頭を出しましたスルト孔子はあれ見よ牛がと申された弟子の面々みな不思議なと思ッたが先生の事ゆゑ何か譯があるものと思ふて暫し無言で考へましたがサスガ活潑の子路と云ふ弟子は乍ち悟てア、成程と感心したが其外のものにはサッパリ分りません中にも考づきの顔回ハ宅へ歸ても始終考へつゞけ夕飯を食べ了りてもゴロリと寢ころび考へて居ましたが突然飛び起て手をたゝいて喜んだ傍に縫針して居た妻君驚いてアナタ何事ですと云ふと何事どころか眞ようれしうてならん先生が午の頭を出したを見て牛だとをつしやつたハ午の頭をゴつと出したと云ふとじや實に面白い〳〵さても子路ハ感心だと無暗にうれしがると妻君平氣の顔でなたろんなとは知たとて昔から存じて居ますは御膳をたべて寢ると牛になると申ますでせうトさてまづこんな相違した夫婦では少しも樂みがありませんでせう

女學雜誌　第參拾五號　明治十九年九月十五日

●社說

○妓樓全廢すべし

謹んで宇宙の現象を觀るに森羅せる万物一として進化せざるなし金石草木魚貝昆蟲六畜の類皆日々に變化して完全の地に進むものあり之を宇宙の大勢と云ふ苟くも之に反くものは滅し之に乘ずるものは榮ふ此故に人の生れ出でゝ食ふ長じて學ぶ學んで成す皆此の大勢に乘ぜんと欲するに在り人相結んで社會を爲し社會に君臣の別を定め治被治の制を立つ亦此大勢に乘ぜんと欲するに在り故に社會の君と爲て之を總治する所云る政府の如きものは必ずや亦此大勢に伴ふヿを覺悟せざる可らず顧るに社會は野より文に入るものなり不德より清德に移るものあり政府たるもの亦必ず此進路を履んで以て人類の進化を促さゞる可らず但だその管治する所の人々賢愚の等差甚しきあるが故に一朝急に施政の方向を進化せしむる能はずと雖も其目的として希望する所の者は必ずやかの野よりして文に入り不德より清德に移るの進路を行くにあるべき也此を以て人民の心志を改め其動作を正くする如き固より政府の爲すまじき事にあらず之が爲に費す所の金若しよく其望を滿足し之が爲に盡力するの務もしよく其害を除くに足らば如此きも亦政府の當に行ふべき所なり今の政治家或は云ふ政府は社會の道德を清澄し人民の品行を改良するが如きすべて心裡隱微の事務に立入る可らずと吾人素より政府が事々に干渉するの害を知ると雖も政府の目的すでに社會の進化に伴ふにあらばかの道德を清澄し品行を改良するが如きは政府の大に盡力する所ならざる可らず吾人は政府が敎育を奬勵するヿを可とし政府が風俗を匡正するヿを可とし亦政府が衛生に注意するヿを可とするもの也たゞ其の之を奬勵し之を匡正し之に注意するの方法に付固より多少の異見ありと雖も如此き目的を有して大に盡力するの意志に至りては吾人如此き政府の行爲を贊成して措かざるもの也然るに若し娼妓尙ほ公許されて妓樓の所々に聳ゆるあらば吾人果して之を何とか言はん先生人に獨立の德を敎へて尙且つ奴隷の不德を示さずんば何如ん敎師あり人々清潔の德を諭して尙且つ姦淫の不德を告げずんば何如ん醫師あり人に衛生の方を奬めて尙且つ傳染病に遠かるヿを告げずんば何如ん敎諭勸奬の効一もあるなし今それ娼妓は一種の奴隸なり男子の器械となるヿを甘んじて殆ど

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人權を失へり政府たるもの決してこの人權を失ふの女子を縱す可らず娼妓は姦淫の受負あり男子に不德を勸めて世の風俗を壞敗す政府たるもの決して此の風俗壞敗者を容す可らず娼妓は梅毒の原因なり之あるの間は人何如にするも梅毒の病疾を消滅する能はず政府たるもの決してこの傳染病元を放つ可らず吾人常に歎ず世に娼妓の營業あらん限りは政府が施行する數多の美事は全く無効とあるべしと

顧れば吾日本の同胞姉妹は我國の文明久しく進化せざりしが故に多年男子の壓制を受て其心性の發達せざるもの太甚だ多し吾人は今日女權のやゝ伸張せんとするの機運に乘じてこの可憐なる姉妹の爲に盡力し一日も早く其心性の發達し其權力の伸張し切ては歐米開化國の婦人と同樣なる地位に進化あらんことを切望して止まざるもの也今日女學を論ずるの人亦必ず然らん果して然らば先づ男子が女流を器械視するの惡德を破り又女流が男子の爲に卑下するの習慣を去らざる可らず然らずんば女流の進化到底望む可らざる也然るに世にもし娼妓ありて男子の爲に一種の奴隷たることを甘んぜんか男子が女流を器械視するの惡德遂に去る可らず此の惡德去らざるか高尙の氣風決して女流の間に生ぜざるあり如此して日本婦人の進化豈よ望む可んやプラト曰く男子をして獨立せしむるの事情は亦よく女子をして獨立せしむべしと奴隷商賣止んで歐米に人權の初て伸張したるを知らバ人何の故に娼妓を全廢するの今日に必要あるを疑ふやホックスレー曰く假りに女の身心男子に劣れりとせんか若し劣れりとせば弱者に便利を與ふるの務更に大切なるにあらずや蓋し之を與ふるは啻に女流の發達に必要なるに非ず實に人類の進化に必要なるなりと抑も社會の進化を目的とするもの何の故に女權の保護に注意するの要を悟らざる今や女權の伸張を望むと云ふものにして尙ほ娼妓を救世者なりと云ふあり女學の論誌を作くる者にして尙ほ娼妓を弄するの樂に溺るゝありその他の文人論者の如き一々言ふよ忍びざるものあり如此きは啻よ其同胞姉妹の爲に眞に慷慨するの念あきにあらず實に眞正の自由を知り眞正の人權を重んずるの紳士にあらざる也

史乘を見るに姦淫の國家を滅亡するや其力敵國外患よりも强し羅馬の衰ふるや其因姦淫なり唐朝の廢るや其因姦淫あり我國王代の振はざりし其因亦姦淫あり姦淫は先づ一家の和樂を破るが故に一國の和樂あるあし一身の健康を害するが故に一國强壯ならず一人の心志を卑くするが故に國風壞敗せずんば

あらず姦淫の害小に似て其至る所ろ疾病盗賊水火の難に優るものは之が爲めなり然るに娼妓の公許は世人の姦淫を公認するものなり民力の强壯にして國家の安固ならんことを望まバ先づ此源に反らざる可らず現今の新聞紙上より姦淫の氣風を脱去せしめんか士君子の宴書に姦淫の空氣を脱去せしめんか少年の談話に姦淫の言語を脱去せしめんか先づ娼妓を廢さずんバ能はざる也基督曰く娼妓に合ふものは彼と一躰となるを知らざるか汝曹淫を避よ人の凡て行ふ罪は身の外にあり然れど淫を行ふ者は己が身を犯すなりと如此き聖敎を守行するの國民と相競爭せんと欲するか先づ娼妓を全廢して以て現今の淫風を芟除せずんば能はざる也

之を聽く楳毒は百害の王なり之に感ずるもの多くは死せず一生を濛々不眠の躰に送りて國家無用の人となる而も其毒を子孫に遺傳して子孫の心躰ともに天稟の廢物となるべし然るに娼妓は楳毒の元塲なり何如の方を盡すも娼妓より楳毒を去んとするは到底望む可らずと云ふ今を距る二十余年前英國に楳毒撿査條例を發布したることあり當時民間の政事家、敎法家、學士、論者、婦人、職工、一齊に之に不同意を表して皆其不德を論じたることあり當時の衞生家、醫師、學者亦精密に之を撿するに如此き條例は到底楳毒を豫防するに効なきを見たり况んや吾國現今の撿査の如き楳毒を防止するに於て果して幾干の効ありや吾人尤も之を疑はざるを得ず啻にその効あらざるのみならず楳毒の撿査はもと恐るべきの弊害を其他に流すものあり婦女は之が爲にいよ〳〵墜落して德義の念を失ひ醫師は之が爲に不知の間言ふ可らざるの不德に陷り世上の遊治郎は之を無楳毒の保証と見做して反て其放蕩を極むべし故に吾人は楳毒の撿査をしてたとひ病毒の防止に効能あらしむるも尙ほ其の施行を惡むものなり况んや其効能あらざるをや抑も自ら獸慾を恣にして自然の罰を蒙りかの楳毒の病を受て其一身一家を亡ぼす者もと愍れむべしと雖も寧ろ顧みずして可なり政府たるもの何ぞ之が爲に保護し安んじて其獸慾を逹せしむるの方を爲すを要せん蓋し其保護にして若し人民を進化せしむるに助あらバ固より可なり之が爲に反て之を墜落せしむるを知らバこれ决して政府の爲すべきことにあらざる也今や獸慾の羈を脱する能はずして遊蕩するもの素より多くあるべし然れども少年血氣の書生は多くは楳毒の撿査に安んじて其慾を滿すに勇あるものあり吾人統計表を開て全國の楳毒患者は二十才前后の少年に多きを知り之を思ふて更に長大息の極に堪へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ざるなり
嗚呼婚姻條例制定されんとするか娼妓廢されずんば其制定ハ反て害ある者あり女學隆盛ならんとするか娼妓廢されずんば反て夫婦の親睦を害する者あらん海陸の軍備いよ〳〵張り體育の説ます〳〵行れ衞生の講話漸く聽かれ人種改良の論ます〳〵盛んなるか先づ娼妓を廢さずんば効なき也吾が政府ハ明治五年の十月令を下して云く

娼妓藝妓等雇入の資本金ハ贓金と見做す故に右より苦情を唱ふる者ハ取糺の上其金の全額を取あぐべき事娼妓藝妓ハ人身の權利を失ふものにて牛馬に異ならず人より牛馬に物の返辨を求るの理なしト

蓋し我政府ハ帶刀の弊害多きを見て一朝之を廢したり藩閥の宿弊あるを見て亦一朝之を廢したり今や同等の人類にして牛馬とならんとするものあるを見て十五年の間尚ほ之を救濟し玉ハざるハ何ぞや果して其方なきか吾人ハ之を救濟するハたゞ之を全廢さるに在ることを信ずるものなり

顧て世上の貴婦人諸子に告ぐ女ハ踏舞せざるも尚ほ人類なり乘馬せざるも尚ほ人類なり金嚢を捧げざるも亦人類なり西洋文明の交際談話を爲さゞるも又尚ほ人類たるを失ハざるなり諸子にして若し眞正に姉妹の改良に熱心なるか須く相結合して娼妓の全廢を主張すべし歐米の婦人ハ政權の均與を論じて虚日なし諸子尚ほ姉妹の牛馬たるを悲しまざるか歐米の婦人ハ酒烟不德の罪惡を責めて堂々たり諸子尚ほ姉妹の器械視さるゝを慨かざるか姉妹が女流の上に立て同胞の改良に盡力すると云ふハ果して何事ぞ吾人ハ諸子が大に奮起し如此き切要の事業に着手あらんことを希望して止まざるものなり

● 叢話

○いへのとも

世にハ不信切の夫にかしづく妻もあり父も母もなき孤女ありまゝ親に愛をうけぬ可愛の娘もあれば友達なくて心の迷をさだめ難き女流もあり凡そ斯る人々ハ其思を慰め其慼をときて心中の雲を霽らすこと專一なれど吾國今日の風として女にハ心よりの友人あるなくたとひありとも近きには反つて語りがたき由も多きことなり故に本號を初として家の友といへるを設け斯る人々の問を受けて吾人が思ふよしを答ふるの便となす然れど吾人は世に同情の人ありてかゝる問に答へ玉ハんことを希ふなれバ成るべく自らの答を遲く

して他の讀者の答を寄せ玉ハん日を待つべし但だ初めのうちのみ答えの例を示すまでに吾人の考を出すなり

一○妾に一人の愛子ありて今年やう〳〵六才なれバ過る月より小學校ゑ通ハせ候が學校に在る間の勉強は何如にやまだ知りがたく候へども宅に歸りてハ只だ遊ぶとにのみ耽りて机に對ふとはあらず折角學びたるとも皆な忘れやせんと存じ色々に申きかせ侍れど幼けれバ頑是もなく抜け出でゝ外に遊ぶとのみを好み候かゝるは何如にせバ宅に安居き又机にも對ふやふ相成べきや御教を乞ふ(東京湯島愛子の母)

答○御愛子は男子ありやお娘ありや判然せざれど文面を推せバ男子のやう思ハれ候男の御子ならバ當年六才とは今ま遊び盛りの頃あり必しも外に出でゝ遊び玉ふをあしゝとは愛ひ玉ふな然れど學校より歸りてのち少くも二時間は机に對ひて温習する習を得させずバ成長してのちの性質も宜しからじと思ハれ候然るに御心配の如く良法とては少きとなれど第一には愛育の法(本誌第十四五兩號に見ゆ)を行ひて子供に母の言葉を守らるすやう取扱ふにあり其外は先づ机の上に奇麗なる花を挿すか新しき帳面を買ひて與ふるか机のあたりを最と奇麗にかざるかすべて机の前に座ハりてあるとを樂しますするやうの手術を考へ行ふにあり又庭に美しき花草を植え葡萄柿棗の如き害なき菓木をも養ふなど幾分か子供の外に遊ぶを留るの方法あるべし要するゑ家の內、、庭の面、机の前、などすべて子供の心をひきとめ外に出るよりは内にある方ハたのしきやう思ハするを大切とす彼の子供が机ゑむかハずして遊びがちなるを怒り歸るや否や小言のみ申すハこれ家ゑあるを樂しと思ハせざるとにて反つて其効あらざるものと知り玉へ

二○私の母は久しく焮衝リウマチを患ひ居り此頃は兩手ともきゝ申さずまことに心配に存じ候とくより醫師にも見せ候へども何分治り申さずよき療法もあらバ御敎を乞ふ(娘)

答○これ醫師ならずバ明答しがたく又實地に診察せざれバ明答もあやまりとあると候ハんよつて尙ほ良醫を求め御見せあるべし○但し答のしるしまでに聞得たる療法三つ四を告ぐ此れそれ〴〵實驗して皆な効ありし法なりと云へり

甲、焮衝の起るとき炭をよく粉にして細に篩ひ之を少しの牛乳にまぜて毎日三度茶匕に一杯づゝ飲み夜は少しく温浴せバ大抵三四日にて療ゆべし

乙、明礬を火に炙り碎くるほどになしたるを強き酢に投じ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

てよく溶解せしめ之をあたゝめたるをフランネルの布にひたして全躰を拭ひことに焮衝せる部分をよく洗ふべし

丙、一時間または一時半の間よく汗をとりたるのち湯に入り温かなる室へ上りてブラシにてよく磨り水にてふくべし

丁、竜腦二チンス鹿角二チンス松腦油精三チンス阿利布二チンスをよく混合して軟膏とし晝夜ともに之を塗るべし又毎日二三回梅がさ草を茶に製して煮たるをコップ半杯づゝ飲むべし

三○私の娘は十二才に候が諸先生の議論を拝見して感心いたし候まゝ耶蘇教に入て修業させたく存じ候何如やうに取計らひ申さばよろしく候はんや伺ひ申上候(京橋弓町の老母)

答○耶蘇教とは心に信仰すべき教にて別段定りたる場所にも候はねば直ちに之に入るゝと申すとは出來まじき事なりたゞよく其教をきゝて心に會得せば信仰の念も起り申すべし此の信仰の起りたるが即ち耶蘇教に入りたるなり但し耶蘇教主義の女學校は府下にも數多有之候ゆえ此學校に入て修業させたしとの御問に候はゞ前號にかゝる女學校の名前を多く擧てあり又第廿五號及び第廿七號の女學雜誌に一々女學校の場所又は教員の名前などを記し置候間それを御覽の上何處にても入校させ玉ふべし

四○俗説に云ふ松浦佐用姫は大伴佐提比古連が妾なりしに佐提比古勅を蒙り唐に渡し時佐用姫その別をおしみ山にのぼり領巾をふりて之をまねき悲しみのあまり終に死して石となる望夫石と云ふこれなりとあり人死して石となるとの俗説は餘りに異なるやう思はれ候がこは如何なる因縁のあるとにや御教を乞ふ(麻布女學校の女史)

答○佐用姫が石に化したると正史實錄世々の撰集にもかつて見えず万葉集山上憶良が領巾麾嶽を詠ずる歌の序に大伴佐提比古朝命を蒙り蕃國に使す其妾松浦佐用姫別をかなしみ高き山にのぼり遙かに船を望み領巾をぬきて之をまねく是よりして此山をひれ麾の嶽と名つく歌に

とをつ人松浦佐用姫つまこひに領巾ふりしより負る山の名

とあれども石に化せしことはなし思ふにこれたゞ俗説にして因據なき虛談なるべし但し馬琴の説にかの爲名とありし字を爲石とよみちがひたるよりの誤ならんとあるは面白き考なるべし

五○妾の夫は今ま某省に出仕し今日の心配とては無之候へどもゆく〳〵の事を思へば妻たるものも何事か一つの藝なくて

は安心も得ならず覺へ候に今年二十六歳と相成り學校へ行くべきとも出來申さず如何なる修業を致さば宜しからんや御敎を仰ぐ(日本橋の齋藤)

六。石鹼と云ふものありて洗濯も昔しのやう骨折申さゞれどこれをつけて手にもみ候は尙ほわづらはしきやう思はれ候何か容易にてはやく洗ひ得べき方はあるまじく候や(田中)

七。娘は東京のある學校にて卒業いたし今年二十二歳と相成候へどもまだ好縁なくて何處にも參らず近所にては學文をしても二十を過て嫁入口がなくてはなど申し親心にいと悲しう覺え候娘に之を申せばたゞ笑ひて三十までは獨身にてくらしたしなど答へ候がこは何如にいたしよろしきものにや御告を乞ふ(うれひの母)

八。御簾中、奥さま、上さま、女房、御新造、おふくろ、など申す語の字義御きかせ被下度候(女生徒よし)

九。わらはこと幼きうちに父母を失ひ兄は十二のとし行方知れず相なり候へば叔父の許に人となりて今年は舊曆にて十七に侍るが叔父の御惠みにて裁縫一と通りは習ひ覺え候へども學文とてはまことにはづかしき程に無學に候然るに先頃ろ或方より緣ありてふつゝかなるわらはを貰ひ受たしと仰られたるよしにて叔父より御相談ありしが相成べくは兄の居所の相分るまで御厄介になり若し兄が此の世に居ぬとならば家の名跡をつぎて先祖をもまつりたしと答へ申せしにそは尤のこととて叔父より體よく斷はり呉れたまひしに此頃ろある家の二男とか今年十九にならるゝが翌年の事を思ひ煩ふとてわらはの家の養子とならん樣申込るゝよしその方は叔父の御世話になる人の子息にて叔父も容易には辭み申しがたくまして先にわらはが申せしこともあればちやうど家をつぐに宜しからんとてすゝめ申候叔母の手前もあればかくたび〳〵氣儘の事も申しがたくさりとて望ましからぬ彼方の志と存じては何となう心かなしくとみに返事も得なさず候若し都合もよろしく候はゞ今日の時世のことゆえ學文を少しなりとも致したくと存じ候志も侍れば何如に答へ申すが道なるにや多年の御恩を思へば氣儘も申にくゝ叔父のみならず叔母の手前もあり返す〴〵も思定まらず候何卒よろしき樣の御敎を乞ふ(無名)

○夫婦の心得　(第三回)

第九。このころ或る書を讀候に赤穗の義士小野寺十內秀和が其妻丹子に送りたる文あまたを載せたるに當時尙ほかゝる樂しげなる妹脊の交ありしやと思はれてくさ〴〵の感深く覺え

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

候よりて其うちあちこちを書ぬきて夫婦の心得の料となし玉はんことを祈り寄せぬ

復讐のため東行してのち極月十二日妻へ贈れる文の中に云ふ万一何如やうの難儀かゝりしとても見苦しきやうにもしなし被下まじく候又何ごともなき世の中にて候へば猶以ていかやうにも渡世めさるべく候心の働おはしますと覺候ゆへ中々心安く存候今更思ひ殘すこともなくて心能く打立候まゝそこもとにもせめて本望と思ひ玉へ候かし。又二月三日の文に云ふそもじも安穩にもあるまじき歟さ侍り候へば兼てかくごのこと取亂し玉ふまじきと心安く覺候。極月十二日の文に云ふ此方の歌取分け相坂の歌哀れのよし能く聞玉ふとぞんじ候そこにも歌さて〳〵感じ入候涙せきあへず人の見る目をおもひまことに涙を呑といふ心にて幾度か吟じ候輿の方まさり申べくぞんじ候是につけても必ず〳〵歌御すてなくてたえずよみ申さるべく候

かゝる類あまたありて其交のほどをも思はれぬ丹子の歌になき人の墓にもふでし言葉がきありて

きのふまて問へば答へし言の葉よ聞こそこふれ松の下かせ

秀和自盡せるのちはおもひかねてや數日食を斷ち身まがりけるとぞあはれ吾等の妹脊もかくありたしとぞおぼゆ

◦◦第十　夫婦は一躰にて艱難にも憂苦にも皆な思を共になすべき者と存じ候へど我國今日の女子は何故かくも甚しき卑しみをかふむり候にや此頃ろ九月四日の出羽新聞を見るに西村山郡のある教師はその妻を伴ひて里家へ行たる節妻の姉なる人緣なうして他家より歸りをれるありしが其樣姿わが妻に似るべくもあらず最と風流にしてけはひすぐれたるに見とれ妻と共に家に歸る途すがら思ひわびたるが終と心を定め再び里家に至りてその妻を離緣し改めてかの姉なる人を貰ひ受け同道して歸りたりとぞ此れそのあたりにては智識高しと云へるゝ教師の行爲なりと思ひ又た之を記せる出羽新聞の之を責る樣子もなきなど思ひ合はすれば實に慨はしき極みにて切齒の至にたへず又此と同樣なるは東京府下の某學校に教師する人は新妻を迎へたるのち異家より一二千圓の持參金を持ちて來らんとの世話あるに迷ひ多くもたゝぬ新妻を追ひ出してかの持參金もてる女を迎へたるに前の妻は知らざる間に身持となりてけり然らずも思ゐたへ兼たれば婢と見玉ふ共切て御膝下に使ひ玉はれと願ひたるに然らば妾として雇ふべしと答へ前には妻ありしを卑しげの手掛となしけるとぞ行者も置く者も

其心の中何如なるにや聽くも身の毛のよだつ程あり（後にきくこの女は大にその非をさとり今は離緣を乞ひて全く自由の身となり玉へるよし）又妾が知れる家の知己に一人の娘ありて二三年來少しく神經病の氣味ありたるをやう〳〵療やして好緣を求めたるに相應の人ありて之を娶らんとしたるが彼の神經病の事をきゝ込み驚きて親なる人に言ふやう斯る病あらば何時再發して自分の厄介となるや知る可らずよりて其樣の時は親元に引取り決して御心配相掛けざる旨の証書を認め印を押して持參ありたしと申したるよし聽くも涙の落る薄情ありこれと云ふも我國には從來夫婦を同躰と見るの習いせなく妻をめとるはたゞ下女を雇入るゝの心持あるよりかゝる輕薄の心男にあるなるべし編者几下つとに夫婦の心得と云へるを草していろ〳〵に妾等婦人の事を顧み玉ふは實に喜ばしきかぎりといへど世上の男子にかゝる心あらん間は琴瑟和樂とか云へる如き妹脊の交を得んとは思ひも寄らざる望と存じ候伏して殿方原の注意をひく

○　批評

日本婚姻の弊害　中本一冊（四十三頁）定價十二錢五厘

此書ハ大島盛三君が東京及び鳥取等の衛生會にて演說ありたるものゝ筆記なり親族婚姻の弊害と云へるには細密の統計もありて有益の論說なれど早婚の弊害と云へるには日報記者が曾て論出したるものゝ抄錄の外見るべき程の文辭なし思ふに第三席後の演說に尙面白き者多くあるべきを此書にハ只だ其前席の談話のみを筆記したれば斯く物足らぬやうにハ思ハるゝならん且つ親族婚姻の弊害を說くにその害の發生する理由に至てハ歐米學士未だ確說を論究せずと云ひ早婚の弊害を述べてハ只だ人口の增殖するのみを憂へらるゝと至らぬ所ありと云ふべし然れども。現今此樣の時弊を論述せるもの尠きに際し此書の如き亦た有益なるものと云ふべしたゞ假名附なくして婦女子の讀難きを憾むなり

看病の心得　中本一冊（七十八頁）定價卅錢

此書ハ笹川純一君の著述にして佐々木東洋君の校閱を經たるものなり書中十二章ありて病室の位置、室內の溫度、空氣の流通、室內の明暗、清潔法、藥劑の用法、食物の用法、看護の準備、注意すべき患者の容態、身躰の安慰法、室內一般の處置、傳染病中の注意など皆な信切に且つ平易に說明ありて後に看病人の承知すべき事々（撿溫器の用方。おもゆ、すうぷ、など食品の製方。頭を冷やす事、こしゆ、脚湯、ばつぷ、など局處療法の事。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

及び消毒法の類）をも附錄されたり從來此樣の書は甚だ少くたとひあるも多くは反譯なりしに本書は著者が經驗されたる條を信切に書留たまへると見えて感服すべき注意甚だ多し例へば看病人が飲食及び藥調合などをするには別室か或は屛風衝立の向ふにてなすべし、毒殺さるゝと疑ふ病人には强て飲食を勸めず時々食物を患者の前に置き他人をして其目前に飲食せしむべしと云へる類實驗の人ならでは心付かざることなり前號にも述たる如く看病は婦女の爲すべき仕事なれば當節柄吾が讀者の之を一覽あらんことを勸め申すなり

●論說

○女子自尊せざる可らず　植村正久

左の一篇は六合雜誌の編者植村君より寄贈ありたる者也

東京の市中にては餘り見ぬことなれど郭外に出づる人は常に目擊する所ならん街上に車を挽くものあり夫は前きに立ちて之を牽き妻は後方にありて之を推す良人途上に艱みて呻吟すれば妻女額に汗を流して之を扶く嗚呼人生の行路頗る艱難なり一家の交際夫婦の至情斯の如く互ひに勞を扶け與に業を荷ふの地位に至りて漸やく行步の少しく容易なるを得べし吾輩目下社會の形狀を觀察して此の點に至るときは實に長大息に堪へざる者あり蓋し我邦推し並べての風俗を察するに相敬し相愛し相扶くるを以て夫婦の道の本意と爲すもの無く良人は其妻女を視ること單に情慾の用に供するの器玩たるに過ぎず女子も身を以て斯る玩弄物と爲して少しも愧る所を知らず此は全く敎育の弊習慣の害より起れることゝは申し乍ら實に淺間しき限りと云はざるを得んや是の如く女子は自らを賤んずること甚しきが故に世人をして益す女子と小人とは養ひ難しと云へる妄言に惑はしめ婦人は小兒と共に常に事物の筭用に置かれざることゝはなれり又男子は婦女を賤しめ己れの配匹を蔑如するの罪を犯して其罰を免るべき筈なきが故に儼然たる丈夫の地位を保つこと能はず徒らに肉慾の奴隷となり可惜才能を空うし家を亡ぼし國を傾くるに至れり蓋し夫婦は人の大倫なり正當なる道を踏むときは其利益極めて宏大にして男德女德隨つて愈よ盛んならんとす然れども其精神腐れ其交際亂るゝときは利器反つて仇となること多きは理勢の然らしむる所ならん故に女子己れの身を蔑視して其地位益下り男子は婦女を玩弄して其恥辱を吾頭上に被り其害毒を己が身に受けんとす何んとなれば夫妻一躰二人恰かも一人と異ならざるが故

に夫にして妻を器玩視するハ其効果に至りてハ宛がらわれの身を賤んずるに異らざれバなり故に男尊女卑とか婦人三從とか三界に家なしとか唱へ高貴の夫人を御息所とか云ふが如き習俗行ハるゝ邦國に於てハ婦人の地位禽獸に異らず隨て亦已れの配匹伴從たる妻女を蔑視することと是の如く甚しきに至れる男子の地位も實に言ふに忍びざるものあり經に所云る其心の慾を恣にするに任せて互ひに其身を辱しむる汚穢に付たし其悖戻に當るべき報ひをわが身に受けたりとは蓋し此の道理に非ずや左れバ今日吾邦婦女子の狀態ハ第一ハ己が身を害し第二にハ男子の身を害すると少からずと云ふべし

故に女子教育上今日の急務ハ婦人に自尊の風俗を養ハしめ大に自らを重んじて深く其將來に望を懷かしむるに在り此れまでの如き自暴自棄隱遁畏縮の性質にてハ迚も女權の擴張夫婦交際の改良家政の整頓は得て望むべきに非るなり或る西人の言に曰く日本の婦人ハ愛すべくして敬す可らず玩ぶべくして伴侶と爲す可らずと吾輩慚愧の余り赧然として其奇言に敬服せざるを得ず遺恨何事か之に加へん且つ男子ハ此事に付きて其罪少小に非ざるが故に宜しく進んで婦人を敬愛するの風を贊成し百事力を盡して之に聲援を爲さゞる可らず是の如く男女相應じて此美擧に勉强するときハ弊風一洗社會の空氣を淸め人民の道德を改良し家政の面目を更め眞正の元氣を振作し國力旺盛ならんことは期して待つべし此の一點の變化にして行ハれずんバ割烹踏舞英語等の教育も徒勞に屬するのみ交際會も空しく弊害の媒介となりて止まんとす察せざる可んや

●

○讀書の要を論ず（其二）

木村熊二

先哲又た云く書籍に因りて得たる智識ハ之を間接に得たるものなり夫ハ古人の經驗の回想返響なるに過ぎざるなり蓋し書籍より得たる智識ハ人の智識にして自己の智識にあらざるなり近日世上に行るゝ新聞紙及び著述書の中にハ他人の唾餘を拾ひて得たり顏に之を紙上に陳述するものなきにしもあらず少年諸子が斯る新聞紙と著述書によりて自己の智識を奬勵せんと欲せバ恐らくハ唾餘の唾を拾ふ者にして有識者の嘆咲を脫るゝ能ハざるなり夫れ智識を磨かんと要せバ自己の思考と經驗とを恃むの外ハあらざるなり凡そ耳目に觸るゝものハ先づ之を心に收拾し培養の久しくして而して後ち發して新鮮の花實と爲るもの是なり故に今ま簡短に讀書の要を言へバ人の書を讀むの方法ハ博く覽て而して之れを約取し其の眞理を推

究するに至りて而し後ち止むなり有名なる佛蘭西の理學者の言に云く我れ眞理を手にて擒にせバ直に之を縱さんと欲す其れ再ひ之を逐ひて擒にせん爲めなり」レッシング嘗て人に語て云く此に全能者あり左手に眞理を攜へ右手に眞理探究を持ちて我に就て何れをか撰むと問バ我れ眞理探究を撰ハんと答ふ可しと我輩今ま智識を練磨せんと欲せハ他人の智識を借りて以て我か用となすにあらずして他人の智識を以て我か固有の智識を培養し經驗と研究を積みて後ち新鮮なる智識を世上に顯さんと欲するなり昔者蘇老泉ハ嘗て六經百家の書に熟して其の文章の大に進步したることを覺へたり其の思を心に致すに當りてや其文章を考へ或ハ之を相すくるか如しと云へり詩人の優柔騷人の清深孟韓の温醇遷固の雄剛孫吳の簡切之に投じて向ふ所ハ意の如くならざるなしと然れども今其の文章を讀むに及んで六經百家の文にあらずして斷然老泉一家の文たることを知る可きなり吾人が書を讀みて智識を研究せんと欲するも亦大に是に類するものあり今ま人あり聖書を開きて造物主の智力と神聖なることを知り或る時ハミルトン、セキスピーヤの詩を讀みて其の想像の究りなきを感じフランクリンの書を讀みて其才智の遠大なるに駭けり而し此人や一日ハミルトンとなり次日ハフランクリンとなりて其の才智と想像力を借りて世に誇らバたとひ智ハありと言ふとも何ぞ稱するに足らんや故に今ま余輩ハ告ぐ貴孃諸子書を讀むに當りて必ず多きを貪らず事實を推究し經驗を積むことを以て螢雪の要務と爲れんことを老婆心を以て此に企望するなり

●佳傳

○木村とう子の傳（其二）

かゝるうちに君が靈の經驗いよ〳〵熟してまことの平和を得たまひたれバ此よりして君が熱心の性質は敎の道に向ひての熱心となりさま〴〵の働を道の爲めに盡したまへり先づ君が屬し玉へる下谷敎會の內に設けたる安息日學校の敎師となりて日曜ごとに幼き子供等をあつめ最と信切に敎の道をさとし玉ふのみか自らも幼子のやうなりて面白き話どもそのたびに物語りたまふにぞ子供等はこれを樂しみとして其日をまちかね君のかたハらに群れ集ひて敎をきくを何よりとは思ひけり其後君ハまた同敎會內の婦人がたに謀りて下谷敎會婦人會なるものを設け毎月一二度づゝより合ひて狀袋あみものなどを製し之を賣り拂ひたる金を慈善の用に寄附しまた毎日曜日に

れそれ〴〵の人を聘して女子の心得となるべき事柄の談話をきかせ玉へり此れよりして府下の教會にも所々に婦人會を起すものありたり。斯て昨年の夏とありて彼の渡邊鼎石川暎作兩君が束髪の風俗を起さるゝ企あるとき太たく之を賛成して束髪會の幹事となりとも〳〵に盡力ありき又そのころよりかの明治女學校なるものゝ設立にいたく力を盡したまへり。抑も此の女學校ハ君が一生のうち尤も熱心ょ盡力ありけるものあれば吾人が之を見るもまた君が最愛のかたみと做さゞる可らず昨年の九月初めて開校ありたるのち君はその取締とありて事務を幹理し敎員を助け生徒をなぐさめ熊二君を補ひて一日だもおろそかにおし玉ひしとはあらざりき今その一例をあぐれば或時同校の敎員する人二人まで腸チブスを患ひて入院ありしとあり其比ろ病の症傳染すべきものあれバとて醫師も人々を近けざるやうなせしが君は此の二人の方とは明治女學校の爲め喜憂を共ょすべしと盟ひけるとありまして此學校の爲め命をすつるとは初めより覺悟せしととて人の留るをも顧み玉はで自ら病院に來りかの方々の蓐の中に入り己が躰をつけて温めなどしひたすらに介抱し玉ひけり（當時其一人はついに果敢なくあり玉へりこれ吾人が前號に傳したる富井於兎子あり）此れたゞ一つの事あれども君が此校の爲に力を盡し玉へる趣を知るに足りなん斯れバ生徒の方々ハ皆な君を母の如く敬愛し一日だも學校に來り玉ふとなくば皆な物さびしきやうに思ひて樂しまざりしとなり

斯て明治女學校の名聲いよ〳〵高うありて生徒の數も追々に增し加はりすでに寄宿舍をも設けまた學校を新なる地に移さんとの計畫も調ひける今日此頃となりて君が夢の如くして一朝に此世を去り玉はんとハ何人も曾て思ハざることありき人

生の理深遠にして吾人がいさゝかも窺ひ得べき所にあらざるありさて八月十六七日のころはその前つ方より心地あしとて打伏し玉ひしがにはかに快氣とあれるやう申され熊二君と共に出でゝあちこちに遊び玉ひ十七日の朝には特更に身つくろひして九段の寫眞師鈴木方に至り熊二君と共に影をうつし玉へり前にかゝぐるは其日一人だちて別にうつし玉ひしを彫ばめたるあり然るに其夜九時ごろよりにはかに心地あしうなり玉ふて翌朝余がまいりたるころは早や眞性のコレラ病に變じたりしやう思はれたりその時余は枕邊ちかう居寄りて叔母さま如何にや大丈夫に候ふべければ確になし玉へと申せしに揖と喜ばしき面色して餘り近ふ寄らざるやう制し玉ひ且つ靜かに言ひたまふは「大丈夫なるともあらざるとも何れにてもよろしたゞ肉躰の苦しみを取去り玉はんやう神さまに祈るばかりです」と且つ聖書をよみてよと言ひ玉へば熊二君も余も各一章ほどづゝ讀みたるにたゞありがたし〳〵とのみ申されけるが次第に耳の力弱うありてきゝにきく之を聽んとて苦しみ玉ふやうあれば暫しにて止ぬ斯て熊二君にも余にもいろ〳〵の教への言葉をかたりたまひけるが今は皆な遺言とあれるぞ悲しきかぎりありかくて十時半とあれる頃氣色いと惡しうなりけるが靜かに目をねむりて祈禱し玉ふやうは「天に居ます吾等の父よあなたは樂しき時もまたあやめる時もいつも吾等を基督と伴あらせ玉ふを感謝す今ま御招により吾が靈をさゝぐ願くは之をうけ玉へアーメン」と明らかに祈り了りてさて熊二君にむかひ之より皆さまに御禮を申上ん起し玉へと言はるされど起しがたければ斯ること言はで其儘にし玉へとすゝめしにぞさらば之にて了りまふさんとて水あまたをのみ眠る如くしてゆき玉へり吾人其の樣躰を見れば四肢經攣して苦しさ限りあらじと思はるゝにましてうめき玉ふ聲をきけば腸を斷つがごとく感ぜられ世にかゝる苦しき病あらじと思はれぬ然るに君は平和にして少しだもみだれたるさまあく物語り玉ふときは常よりも尚ほをだやかなりけり其朝余がまいり合はする前に醫師の來りたるとき君は之に向ひもしまことのコレラに候はゞ厭慮あく早う申されたし只今あらばかく病の重うなりしまでの手續を盡く覺え居ればくはしく物語りて後の人の御心得と爲したしと言ひ玉へるよりて知るべしかゝれば此に來りて見たまへる巡査の方々は此病を患ひたる者にてかくも平和に事たへたるは未だあらずと感じ合ひて其夜警察署中の一問題とあり到底耶穌教を信ぜずば終を令すると如此く

あり得まじと悟り玉へるも多かりしとぞ（次號にて了る）

○

梅香女史の傳　第十五續

留る所を定む賢母の愛
行く所を決す秀女の才

かゝるうち彼の叔父なる人も出で來りて雙のまごゝろを感じ乍ら姉上の事は余ゞ引受て御世話申すべければ決して心配なく心地よう洋行すべしまた姉上も此子の事は御心配に及ばじかの洋婦人にいとう愛され居れバなまじ此地に在るよりも更に心安く勉強し得べしなどおちこちを慰めて夏の日の夕ちかうなるころ二人のをもてのみぞいとしめりがちなりける

●寄書

美術及其要領

下谷練屛町　服部甲子造

人各能あり不能あり國亦然り各長處ああ短處あり概論すへからすと雖我邦を以て之を歐米諸國に比較せハ我の百事幼稚にして未開ある彼の業に熟練して高尙あるに驚かさるあし此を以て彼の事情を知る日一日より多きに從ひ一般我の匹敵し得へきに非さるを知るも月一月より精しく遂に今日に在てハ事物の何たるを問ハす悉く彼を師として研究するに至れり而文明の裝飾物たる美術の點に在ても主務責任者の間斷なく改良進步に傾心從事する際あれは斯に此題を提出し聊か當路者の參考に供せんと欲するあり而予の今本題に先ち單に所謂る術。なる語に就て管見の解釋を施さんと欲するハ亦無益の言に非さるを信するも也

凡そ世に成立存在せる者天然物を除くの他一として術なる働きに依て現出せる產物あらさるあし而術ハ我〻人間の獨り能く所有する働きなりとす何を以て然りとするや今蜂の巧に其巢を搆造し蠶の妙に其繭を經營する者其形躰物質開闢の昔より今日に至る迄何ほ其遠く地球上に生出せん限り毫も差異變化あかるへしとす故に其搆營せる巢倘しくハ繭の如きハ自ら天然物類似の物躰よして未た以て術の產物と見做すへからす所謂術の產物ハ人の內部に或る目的の興起するに從ひ其目的を滿足せしむる爲に作り出せる物にして語を變して之を言へハ人の目的の世に顯れたる物即ち簡短に人工物ありとす杯碗は飲食を便利にする目的の結果にして鍋釜ハ烹煮を都合善くする目的の現像たること明なり人或ハ言ハんとす蜂の巢を搆へ蠶の繭を營むも亦皆其目的なからすや既に目的ありとすれハ亦術あらすやと此說理あるに似て卑陋と評すへし人間も鳥獸も其他虫魚も艸木も凡そ天地の內外に存する者共に皆「ゴット」の造置に係り種々の性質を配與せられたる者なれとも鳥獸虫魚の類ハ其爲す所行ふ所常に定則恒規の外に出つることなし是れ術に非さるあり獨り人間ハ否す往々無能無術の愚男痴女ありと雖概して無比の精神と卓絕ある機能とを得て生出する者たるを以て日を追て新規重寶ある時を經て改良便利ある物品を一個倘しくハ數個の目的に從て現に產出せしむるに非そや此新趣向の物品を產出せしむる働に向て術ある語を與へたる義にして鳥獸虫魚か天然物類似の造營品に惜氣もあく附與したる名に非さる也解き來る斯に至れハ術の人間貴重ある專有物たること稍判然せるなるへし之を要するに術の產物ハ明瞭ある目的と堅固なる想像力の結果にして偶然に成立する物に非さるなり故に今經見あき聾者の笛を鳴らして不圖律呂に適ひ瞽者の筆を採て不思巧麗愛すへき艸木を畫く者ハ術の成績に非さるあり是より進んて術の產物に止的消的の別あるを略述せん所謂止的術の產物ハ其形躰を有する物にして眼以て之を看手以て之に觸るゝことを得るあり故に外物の來て侵すことあき間ハ決して消滅せさること圖畫彫刻物等の如し之に反して消的術の產物ハ世に顯るゝ形躰なきを以て耳以て之を聞き心以て之を感するの外あきを常とす演說音樂等之あり假令時として演劇の如く眼も亦た之を視る者ありと雖元是演劇自ら有形的の物に非すして有形の人間か身躰手足の運動に因て無形

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の技藝を試むる者なれハ亦同しく消的術の產物にして傍觀傍聽する者の獨り能く暫く記臆に貯ふる所たるに過ぎさるなり今再ひ術を二別して機械的の術及ひ美術と爲す何をか機械的の術と云ふ他の使用便利に供する目的に出つる者是なり而何をか美術と云ふ人の愉快娛樂を喚起し兼て人の思想世の風俗を高尚優美ならしむる目的に出つる者是れなり時として悲哀憾憤亦皆快樂なるを知るへし悲むへき音樂を聞て悲む能ハす憤るへき演劇を觀て憤る能はす還て術者の業に拙なるを笑ふは決して快且つ樂に非さるなり悲むへきを聞て悲み憤るへきを觀て憤る時に是快樂あり（未完）

○

一夫一婦の說

（小石川小日向臺町）

長榮女塾一級生　某女

夫婦は人道の大本にして而して一夫一婦は人倫の大綱なり今夫れ一男にして數女を娶り一婦にして數男に配するは則ち大綱を敗り倫理に戻るものと云ふべし亞米利加の南に一國あり一婦にして數男に配し或は西藏國にては其の兄妻を娶とりて諸弟と之れを共にし而して其俗も亦た之れを怪まず若し我國人をして之れを評せしめは必すや倫理を紊り貞操を闕くものとせん然れとも一男にして數婦を娶とるものと理に於て何そ擇ハんや要するに敎化各々宜しきを得ず風習之弊兩ながら眞理を失ふに至りしなり今や我國男女の間酷だ徑庭あるを以て競ふて其地位を均ふせんと欲するものあり於此乎同權論世に囂々として或ひハ智識を進め藝術を勵む等女學の隆盛なる前古比なしと云ふべし然れとも其本亂れて末治るものは否し苟も大本にして闕點あらしめは千藝萬術も亦克く千古の弊風を洗除して其地位を均くするを望むべけんや抑も學藝其地位を保つの具にして達するの原理にあらす若し智力を以て相凌ぎ頡頏して以て相競ハヽ父子の間も保つへからず况んや情を以て相合ふものをや是れ世の論者にして儘ゝ同權を悅ハさるものある所以なり然れとも眞理を明かにして之れを活用するときは理をして死物に至らしめす苟も眞理にして死物に至らざる以上は良心甘んして之れに服し或ひは適宜に取捨するとなく其の規矩一に眞理に照らして大も小に加へす强も弱を凌かず有智も無智を輕んぜず而后始めて眞の文明を現出すべきなり今や我國の婦女が標準模範とするところは則ち泰西婦人にあらずや泰西婦人の其の男子と同等の地位を完ふして一步を譲らさるいえんのものは我國の婦人と義務責任の異なるものあるにはあらす然らハ則智力の致すところとせんか我が國の婦女子と雖も豈に悉く暗愚無智なるもの而巳ならんや然れとも甘んじて異等の地位に安んずるものは他なし敎の因つて然らしむるところにあらすや夫れ倫理の偏重なるは人道の大本を全ふするに足らす而して一夫一婦の眞理を敎ゆる所の敎理は泰西婦人の尊信する所なり尊男異等の敎は我か國婦人の甘んして服するところなり自から服する所に安んじて彼れの尊ふところに從はず却て其結果を羨みて之れを經營せんと欲せバ只に木に憑て魚を求むるか如きのみにあらず其弊睽離曠廢の害を視るに至らん乎世の婦女子にして同權を望むものは宜しく其の眞理のあるところの敎に服從せさるべからざるなりと云ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新報

○婦人の洋服　去る十七年の頃は婦人服制と云へる規則ありて上つ方の令閨令娘のはれの衣裳はみなこれと云ふ定めにかぎられたるが此夏宮內大臣の達に自今西洋服裝隨意に相用ふべしとありし上にかしこくも吾　皇后宮はさるころ初て洋服を召させられたれば今や婦人の洋服と云へることは一つの流行となりけりそも吾國の婦人が西洋婦人と同樣の服裝するは恰かも沼を出でゝ澤に入る如く必しも便利なるにあらず吾人はメール記者と同く之を賀するものにはあらずと雖もさればとて日本女服の不便なるは勿論なる上に改良服を製すると云ふとは容易に實行しがたきものなれば先づ開化したる婦人と同樣に裝ふも文明に趨く一の方便となるべきか故に吾人は吾國婦人の洋服をつくるとに反對するものにあらざる也

○縁飾の御用　皇后宮の御服飾に用ひさせらるゝ縁飾を今度日吉町のレース教場へ新調を命ぜられし由なり右の御用は女生徒及び女教師等二十餘名にて分擔し凡そ十日間に出來して上納する見積りなりと云ふ(九月九日日々新聞)

○女學校　華族女學校は去十一日より開校の筈ありしが尙ほ三十日迄休校とあり。麻布の英和女學校は廿日まで。横濱の共立女學校も亦廿日まで休校とあれり。横濱のフェリス女學校は今十五日より開校とあり築地女子傳道學校は十一日より明治女學校は八日よりいづれも開校さる又上野公園地四軒寺町文部省用地の高等女學校は帝國大學構內の舊法學校跡へ引移らしめらるゝ由にて目下協議中なりと云ふ

○看病婦學校　海軍々醫の方々に緣故ある夫人令孃を以て組織したる愛生社にては附屬學校を建設し臨床、繃帶の諸科を初め病者を看護するに必要ある學科を教授するの企ありと云

○工女の勉勵　甲府の製糸場の中には規約の嚴重なると雇主の苛酷なる所より同盟罷工を謀りし工女も往々ありしが中巨摩郡源村飯野新田の飯田七郎右衞門氏方の製糸場に從事する工女は雇主が万事信切に遇する所より只管製糸の業に心を用ひ他事は一切顧みず適々不品行の者ありて假染にも猥褻がましき事の仲間中へ聞ゆる時は一同申合せて其者を擯斥する程なれば其結果は忽ち顯はれ本年同製糸場より橫濱へ輸送せし生糸は品位殊に善く價格も存外高く賣れしと云ふ（九月七日山梨日々新聞）

○貴婦人の贈與　先號の紙上に日下長崎縣知事夫人其他二十餘名より過般水兵暴行の際に負傷したる警官及人民に毛布一

枚づゝを贈りたるよしを記せしが尚又當夜闘死せし巡査福本森の兩氏の遺族へ香奠料として金十圓づゝに書狀を添へて贈與し又負傷者の中にて目下自宅治療中なる警部補松崎恒氏外十三名へも同樣書面を添へてミルク二個並に菓子一箱づゝを贈られたるよし鎭西日報に見ゆ

○朝鮮の蓄妾　凡そ開化低き國ほど姦淫の弊風多きとあるが妾を置くの悪習など尤も然りとす九月六日時事新報紙上の朝鮮通信に云く朝鮮にては中人以上ゑして妾なき者少なく閔應植は妻ありて別に妾三人閔泳煥は妻のほか妾二人閔泳翊は妻のみ金允植は妻なくして妾のみ二人これ上等の人々の例なれども大に下れる人々にても妾一人は必ずありと云ふ大院君は妻閔氏のほか妾二十七人あるよしと聽くも忌はしきとなり

○香港の日本居留人　香港に出稼せし我國の女子にして不正業のものは先頃南領事より說諭の上本國へ送り返され猶ほ出稼人取締規則を追加改正して正業に就かしめられしより目下同地に居留する者は男は留學生商估工藝師の三種に止まり女子は本國人の妻子令娘及び宗教家等にて一として不正業を營み取締規則に違犯するものなきに至れりと同地よりの來報に見えたり（九月二日日々新聞）

○各地紡績所の景況　明治十三四年の頃關西諸府縣にて其筋のすゝめにより陸續創立したる紡績會社は兼て政府より貸付を約したる紡績器械が英國より到着の折には世間の景況一變して商業不景氣の姿を現し金融壅塞物貨停滯日を極て益甚く紡績も殆んど望なき有樣となり果て一時は五十圓の株劵が十圓内外まで下落したるものあり其他も概ね之と同然の不始末を顯はしたるもの多く就中己に器械の運轉を始めたる者又未だ据付に至らざるものも共に非常の困難に逢ひ之を人に譬ふれば微かに呼吸して僅に命脈を繫ぐが如き姿なりき然るに各地の木綿類織物類にて此迄橫糸に多分の唐糸を使用し來りしを近頃彼の紡績糸を以て之に代用するの便利を知りて頻りに之を使用するが爲め本年に至り紡績糸の販路漸く擴まり殊に近來は各地の需要頻に忙はしく各紡績場とも思はず繁盛を來したる由右の次第ゑ付廣島紡績場は此迄廣島市街を離ると數里の山邊に在りしを今度同市中ゑ移し又名古屋紡績會社は未だ器械据付の運に至らず數年間其まゝ放棄し居たるを今度一層其規摸を擴張し同所堀川端に該工場を建築する趣にて其計畫を右兩縣より農商務省へ依賴したるが爲め先般同省より谷口三等技師が同地へ出張し實地撿分の上諸器械据付の工事を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

指定し尚ほ同會社役員等へも具さに該業の手順等を説明したる上にて此頃歸京ありしと（九月七日時事新報）

○毛染屋の繁忙　近來毛糸編物の流行しきりにて此頃は地方行の注文も多き由にて舶來の色合にては不向きの品を染直し又白地の毛糸を青紅藥色の染分け抔にする爲め毛染屋は大に繁劇を加へたりと云ふ（同前）

○婦人教會員　今一日神理教師安原蘇山氏ハ頃日來着したる神理教婦人教會女講師高山杉子氏を博多氣儘亭に招待開宴し來會せしよし兩奏樂會よりは富永野田の正副會長吉松會長並に祝部キヌ萩谷菊代末田ウタ其他廿餘名何れも婦人教會員にて杯盤の間演説盛んありしと九月三日の福岡日々新聞に見ゆ婦人教會とは何如のものにや

○高等師範學校女生徒　は過る頃學資金を悉皆官費とあしたりしも男生徒とは金額の差異ありける由の處今度いよ〳〵男生徒同樣に增額して每月の學資金七圓五十錢宛とあり來る十月一日より洋服着用の事に相成るよし尤も右洋服料は各自の學資金の内にて拵へる都合ときく

○久屋就產所　名古屋の久屋就產所には職工凡そ三百八内外ありて其内八九分は女工一分は男あり當時一ケ月間の織高は八百反以上（主として玉南部を織る）にて女工一人一日の織上げは一反半なりと其外卷煙草の製造もあり又女工の授業場もありて追々に盛んあるよし

○京都府女學校　同校は今月初より授業方に改良を加へられ裁縫科の如きも僅少の年月にて勝手によく出來うる樣に工夫せられ其外に算術習字作文等をも兼修せしめ又望のものには西洋あみ物及ミシンの技術をも敎へらるゝ由

○保育科　大坂の東區百濟、汎愛、浪華の三校へ今度幼稚保育科を設けたるに付き右科へ入學志願を爲したるものは百濟に七十名汎愛に五十名浪華に五十名ありと（九月七日内外新報）

○レビット夫人　當今西京に在らるゝ彼のレビット夫人は去十日より明十六日まで一週間每日午后四時より同志社構内の會堂ヱ於て禁酒の演説を催され月火水の三曜日は特別に晝夜をかけて演述されしよし同夫人は此演説了り次第神戸に出で淸國天津へ渡航して上海香港を遊説し夫より印度ヱ赴かるゝよしにきけり

●在地方の看官に乞ふ願くは其地々々の婦人職業の景況其外珍奇なる事實あらば惠報あらんとを啻に本社のみの希望にあらざる也

（第二回點取文始末續）

寄附金を以て小學校の經費を辨し能はさるの場合なり然らは府知事縣令が其全額を定むるの如何によりて普通敎育の盛衰に關する所細ならすと云ふ可し余輩は府知事縣令の勅令第十四號を應用し小學校經費の大部分を區町村費に取られんことを切に望んで止まさるなり

第三章　婚姻條例を制定し早婚の弊を匡濟す

吾十有五而志於學。三十而立。四十而不惑。五十而知天命。六十而耳順。七十而從心所欲不踰矩。とは孔夫子が二千年の前にありて語りし所なるが余輩は未た知命耳順等の履歷あらされは此言の妙を覺知するに及はすと雖も古今の實蹟より今日人間社會の有樣を一看すれは正しく此階級を履むものと見へ輕躁過激身を誤り放蕩淫逸産を失ふが如き多くは是れ三十年以下血氣の時にあり好しや三十年以下のものにて實着に社會に立ちて能く其の交際を全うするものあるも未た以て前途を保証すへからす先つ三十三年の曉を迎へされは一個の人物と謂うへからさるか如きは今日猶社界の實況なり倩此而立の域にまで進歩し來りても志操堅確其主義を轉變せさるに至りては不惑の年に至らされは能はさるものにて十人の上に立ちて大事に任するものは實に不惑以上にある由余輩の聞ける所なり是れより又知命耳順と其序を差はす如何に無學のものと雖も既に此に至ては其心得のよきと壯年血氣の時とは恰も別人の如し七十古來稀なりと曰ふと雖も何れにしても人世の活劇は四十年以上にして始めて舞臺に上るへき筈にて西洋諸國に於ては國家樞要の地位に立つものは勿論國會の議員なり會社の社長なり都て社會の劇務に當りて事をなすもの多くは白頭者にありと然るに我日本の如きは則ち然らす漸くにして不惑の地位にまて進めは家督相續の權を讓り渡して退隱の計をなすもの多く自ら稱して老人と曰ひ人も亦老人の稱を以て之を尊敬するとなし此社界には四十年以下の男子のみを留めて老人と女子は連衡して別天地をなすの觀あり老後此の如し其源蓋し早婚の弊に胚胎するなり夫れ男女二十年前後にありては口吻未た乳臭を脱せさるに旣に子姓振々膝を遶り行をなす豈能く其子女を敎育するを得んや此の如くにして循環し其極不完全の人間を以て社會を組成するに至り躰質智識從て虚弱となる高加索人種と蒙古人種の別實に此邊にありて存するものと謂う可し請ふ各國男女嫁娶の期を對照して之を示さん

前略更に本邦と歐洲各國とに於ける平均の年齡を比較すれは左の如し但し本邦は明治十五年の事實にして歐洲各國は千八百六十年より八十年に至る二十年間の平均數なり

國名	結婚者年齡平均 男	結婚者年齡平均 女	人口每千に對する結婚の割合
日本	年 二二、一〇	年 一九、〇四	倍 九、二
魯西亞	二五、〇五	二一、〇五	八、五

國名	結婚者年齡平均 男	結婚者年齡平均 女	人口每千に對する結婚の割合
伊太利	年 三〇、〇二	年 二五、〇四	倍 八、二
和蘭	三〇、〇九	二八、〇〇	七、二

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

英吉利	二八、〇七	二五、〇五	七、二
普魯西	二九、〇二	二六、〇〇	七、五
佛蘭西	三〇、〇二	二四、〇九	七、四
瑞典	三一、〇一	二八、〇三	
白耳義	三一、〇三	二八、〇五	七、一
○	○	○	○

右の表に據りて觀れハ本邦に於ける結婚の年齡たる男子ハ二十二年十ヶ月女子ハ十九年四ヶ月にして歐洲各國中最も早婚ある普魯西亞と雖も尙本邦より遲きこと男ハ二年四ヶ月女ハ二年一ヶ月あり又男子の尤も晩婚ある和蘭に比するときハ本邦の男子ハ之れより早きこと七年十一ヶ月女子最も晩婚ある白耳義に比するときハ本邦の女子は之より早きこと九年一ヶ月あり要するに本表中結婚の早きこと本邦の右に出つるものあし蓋し其衞生上に關係を及ほすこと鮮きよあらさるへしと雖も未た精覈の調査をなし得さるか爲め聊か其事實を概擧して以て參考に供す（本年一月四日官報内務省報告）

按又白耳義の男子に比するときは本邦の男子は之れより早きこと八年五ヶ月なり

我國早婚の事實此の如し其衞生上に關係を及ほすこと鮮あからさるは論無し敎育上の關係亦細あらさるへきは普通の智識を備うるもの丶能く知る所あらん是れ余輩が婚姻條例を制定し早婚の弊を匡濟せんと欲する所以あり然り而して男女何年を以て嫁娶の期とあすへきやは博識家の考按を待つ余輩は今之を論せさるなり

第四章　子守女子敎育の制を立つるを要す

吾國學齡兒童就中女子修學生の少あき原因を原ぬれは早婚の爲めに優遊として普通敎育に從事せしむる能ハす又た其父兄たるもの身に敎育義務あることを知らす隨ひて兒童敎育の痛切なるを感せさるもの等亦是れ一種の原因たるに相違なかるへしと雖も社會の風習として生業上勢ひ兒童をして修學せしむる能はさるもの其大部分を占むるもの丶如し即ち我國社會の進步せさる人の母たるもの自ら其乳兒を懷にし之を愛撫鞠育そる能ハす必ず恰好の學齡女子に其乳兒を托し身躬ら家事に任せさるを得す俗に所謂子守とハ此學齡盛りの女子にして弟妹保傅の責を負うものあり而して己が家内にして此子守のなきものは他人の兒女を傭ひ來りて保傅の任を托すれハ他人も亦欣然として其兒女を遣し以て計を得たりとあす彼此牽連因襲俗をあし遂に女子の修學を以て鄕黨上流の阿孃に限るものとするよ至る是れ今日我國一般の有樣にして所謂不修學の事故とハ此邊の事となれり社會の爲め女子前途の爲めには誠に歎ハしき次第あれとも亦是非もなきとなり然れとも其父兄たるもの女子の修學を以て惡しきとなりとの野蠻思想ハ今日ハ已に之あし偶々女子修學の必要を感するものあるも唯一般の習俗に化せられ荏苒經過の間早や學齡を超へ婚姻の時期も追々と逼り來り遂にハ眞誠に子を敎うる事も知らす世間の交際といふ事も知らすして人の妻とあるに至るあり然らハ婚姻條例ありて早婚の心配を去ると同時に小學校内に子守女子を

教育するの制を立つるときハ必す修學生の數を増加し爰に女子學問の緒を開くへしと信するなり

抑子守女子教育の制とハ學齢女子にして弟妹保傅の責を負うものにハ其弟妹をも提携して教場に入るを許すの制にて規摸較備はるの學校にありてハ此子守の一教場を設けて之を教授せらるれハ結搆至極の事なれとも今の小學校は概して一教師にして數教場を懸持ちせるものなれハ子守女子の爲めに個々教場を分つときハ其數更に倍して管理上多少不都合にもあるへけれは他の男生と之を一教場に入れ兩列に分ちて一ハ男生の席となし一ハ子守即女生の席となし之を教授せらるゝも差支なかるへし尤も彼等の提携せる所の乳兒たるや固より未た智識の發達せさるものなれは頑是なく時々啼哭母乳を慕ふこともあるへしと雖も機に臨んて時々教場を去らしむるも可なり余輩世間の乳兒を保傅するを見るに其啼哭母を呼ふに當りて之を撼動し或は俚歌其聽を聳かせは彼亦躰操の快角羽の調を感するの意思あるか其啼を止めて呱々として喜色あり其較々白赤を辨し絮々人語をなすものには適當の玩弄物を與へて之が遊意を慫慂せは彼等も同氣の團欒する所其倦むを知らさるものあらん時ヾ唱歌一曲其心情を養う又鄕黨の俚歌淫語に勝るものあり恰も是れ不完全なからも幼稚園兼帯の有樣あり其兒童心情を喚起誘道するもの徒勞にあらさるを信す殊に女子は天性從順なれは管理上左したる困難もなかるへし右は固より完全のものにはあらさるへく其方法の細密は教育家の考按を仰かさるを得す余輩は唯之を行ふて弊害のなきものとする以上は兎に角子守女子教育の制を立て修學生の增加を促かさんと欲するなり

第五章　女生の優待

次に論すへきは女生の優待なり女生の優待とは女生にして學問實驗あり國家の事務に堪うるものあらは相應に之を任官し或は國家に對して勳功ある者は男子と與に之を賞勵せらるゝ等至當の優待を與ふるものにて決して女子に私し過分の保護を與ふるとの謂にあらさるなり聞く米國に於ては小學の教師女生其多きに居ると我國ヾ於ても女子師範學校生徒の如きハ政府に於て之を任官するに男子と同等の優待を以てせらるへし元來西洋の女子ハ自由に社會に横行し來りしものにて順なり日本の女子ハ久しく男子に抑制せられ跼天蹐地の境界に陷りしものにて逆なり尤も西洋諸國の女子とても未た社會の進化せさる古昔にありては東洋今日の女子と其有樣を同うせしものもあらんと雖も社會の進化するに從ひ今日の地位ヾ馴致せしものにて即ち摸範の地にあるものなり日本の女子ハ實に之を學ふもの丶地にあり今や進んて彼等と比肩雁行せんと欲せハ一に彼等の履歴を學ぶに及はず必すや鋭進果斷變則を用ゐさるへからす試に思へ外交開けて日尚淺しと雖も世界中に珍らしき進歩を以て日本國今日の地位に達せしもの世界風潮の向う所なるべしと雖も維新の始め斷然昔年來門閥の弊を去り孜々として草莽の人才を登用せしによらずんハあらす之か爲め今日官途熱心の思想を養成し幾分か民間實業を卑視するに至りし等多少の弊害なきにあらさるも其利害を天秤の兩端に懸けなは果して如何ん一概に世界風潮の向う所なりと論定するときハ支那朝鮮も我日本國とハ同等の進歩をなそへき筈

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なれとも一つハ彼の如く一つハ此の如し維新の始め昔年來の門閥を撤去せしは日本開明の一大原因なりと謂はさるを得ず今夫れ女生を優待するに至りても此趣意を失ハさるときハ鸞鳳豈自ら其影を顧みさるものあらんや必すや女子學問の思想を養成するに於てハ蓋し疑を容れさるなり

第六章　遊藝の改良

余輩ハ女子敎育策に就て余輩の考按を政府に向ひて期望し來れり以下天下の學者に向て相談せさるを得す而して第一着に呈出すへきハ女子の遊戯をして高尚ならしめさるへからす即ち遊藝の改良なり我國女子の風習ハ果して貞操とすへきや將た淫逸なりとすへきやハ一言の下即答し得へし曰く淫逸是れなりと余輩之を聞く或る西洋人の我國風を觀する一見日本國は淫逸國なりと曰ひしと余輩ハ未だ親しく彼の國風を觀すと雖も西洋諸國ハ男女同權の議論盛にして社交上男女決して其同等を失はすと聞くに厭く所なり我國の有樣ハ實に彼と反對にして父母の眼を偸みて穴隙をきり或ハ他人の妻を牽いて花下に情を通じ遂に婚期を失し或ハ風波を提起するか如きハ吾人の耳聞目擊する所にして新聞紙上匱しからさるの常談たり西洋諸國と雖も世間の廣き人民の多き此の般の珍事なからすと雖ども我國とは決して比すへきにあらさるなり試に今日我國男女をして俄に西洋流の交際をなさしめハ如何實に聞くに忍ひさるの醜聞續々として吾人の耳朶を衝き社會の風俗を害する鮮少ならさるへきを想像するなり然れハこそ論より證據東洋の學者ハ此淫亂を目視するに忍ひす益々男女の交際を嚴にし男女手を以て授受すへからすとまでに斷言せられ遂に殺風景の有樣に陥らしむるに至れり此習風實に是れ女子學問の一大障害となるなり而して此風習を誘道幇助するもの東洋遊藝の弊にありと謂ハさるを得す長日厭倦の餘繙いて睡氣を醫せんとするもの娘節用にあらざれハ則ち梅暦あり一張の三絃装して架にあり多恨一曲を奏すれハ春雨（はるさめ）の淫語にあらざれハ黒髪（くろかみ）の鄭聲あり偶々深宮を出て一塲の觀劇半日の欝を散せんと欲す亦是れ朝貌日記にあらされハ則ち桂河連理の柵あり其平日目に觸れ耳に聞くもの都て此の如し未だ人事の何物たるを識別する能ハざる蒲柳の青年安んぞ其浸染を蒙らさるを得んや情を懷き郎を思ひ相思の餘其身命を顧みさるに至る上流の阿孃此の如し一郷風をなし恬として怪まず今此弊を去らんと欲せハ稗史小說演劇の類一々之を改良し更に快活なる思想を養成せさるへからす是れ余輩の切に天下有識者に向ひて期望を屬する所以なり

第七章　男子の女子に於ける好尚を一變せさるへからす

稗史小說演劇の類之を改良して快活なる思想を養成すると同時に男子の女子に於ける好尚を一變せさるへからず夫れ男女交際の不可思議なる一種特別の滋味ありて其間に存するものと見へ男子と男子と接すれハ如何に意氣相投し交誼親密なりと雖も甲語り乙答うるの際に於て時々主義の相合はさるあり色を變し袂を奮ふて起つか如きことあり況んや其相知らさるの間にありては寒暄口誼流石は人間なれは互に搏擊戟手の患もなけれとも赤心を推して彼の腹中に置くと云ふ交際は誠に得易からすと雖も男女の交際は又格別なるものにして秦越途

社告

●第二回點取文始末

右始末を前號より附錄となし後二號を以て全く揭了すべし甲乙丙の賞點を得たる者は

甲點　紀伊國西牟婁郡潮岬　安原士權

乙點　伊勢國多氣郡中村　小竹啓二郎

丙點　筑後國三池集治監傍　西原いの

右三氏なり因て甲點者に女學雜誌三拾冊、乙點者に同二十冊、丙點者に同十冊賞品として寄送すべし

第三回點取文題

日本婦人授產策

右文題に對し寄答の方は來る十月三十一日迄に必ず其答文を寄送あらんことを乞ふ右日限后到着の文は遺憾ながら社評の中に入らざるべし

右寄送の答文は社評の上優劣を定め甲乙丙三等の點を得る者には各左の賞酬を呈す

甲點者	女學雜誌	三十冊	無代呈上
乙點者	同	二十冊	同前
丙點者	同	十冊	同前

廣告

演說 著作 材料新誌　第七號發兌

弊社發行の材料新誌は社員が文壇の時弊を見て餘業に編輯し發兌するものなれども世上の好評甚高く發賣部數も漸々に增加せり女學雜誌愛讀の諸氏は又同樣に御注文あらんことを乞ふ每月一回發行。紙數三十頁附錄四頁。一冊十錢全國無遞送料。見本を要せらるゝ方は郵劵代用にてよろし。願くは一讀して編者の苦辛を味ひ玉はんことを

東京本鄕弓町一丁目廿番地　女學雜誌社

基督教新聞　第百六十三號九月八日發兌

○記者の祈禱○佛者寮舘附會の方便○万事皆可○我必ず死すべき哉○教報○雜報○英文教報

●一部金三錢每週發行郵稅一錢

東京々橋區瀧山町六番地　警醒社

中外兵談　一冊代價郵稅共現金拾一錢　十冊同前金壹圓

右ハ內外ノ海陸軍ニ關スル論說談話奇事異聞ヲ揭ゲタル大雜誌ナリ●第三號九月十五日發行

東京本鄕弓町一丁目　中外兵談社

教育時論　第五十號九月五日發兌

●社說。新令小學校學科程度解說、小學教育の振はざる一原因●與論一斑●論說。教育者は教育書を讀むべし、燕窓雜記●學術。ヘッケル氏創造史●雜記●傳記●問答●論題●內外雜纂●北海道狀況●官報抄錄●廣告

一部五錢郵稅一錢十部四十八錢郵稅十錢

東京下谷煉屛町十四番地　開發社

荆妻鎔葬式ノ節ハ御會葬被下難有御禮申上候御尊名伺ヒ漏レモ不少候ニ付乍略儀紙面ヲ以テ奉拜啓候

木村熊二

東洋英和女學校

本月十日開校の筈に候ところ惡疫流行に付來廿日迄延期す

東京麻布東鳥居坂町

フェリス女學校

本月十五日より開校す

橫濱山手百七十八番館

共立女學校

女生徒募集

本校昨年改築規則改正以來入學生續々あるも校舍廣大尙多數の生徒を容るゝに餘裕あり入學志願の貴女は來る九月廿日までに來校受驗あれ郵劵送附あらば規則書を呈すべし但學費は食料薪價三圓受業料半圓也

橫濱石川山手二百十二番館

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

京濱婦人秋期大祈禱會

來る十月三十日午前十時より十一時迄午后二時より四時まで東京築地新榮會堂に於て相開候間此段廣告候也京阪神並に各地の諸姉にも同日祈禱會あらんことを希望す

委員總代

今般大に學科を改正し校舍を增築し來る十月四日を以て開業寄宿及通學生徒の入學を許す但し規則書御望の方は郵券二錢送付あるべし

京都今出川通

同志社女學校

看病の心得

佐々木東洋先生閲
笹川純一郎先生著
定價金三十錢

此書は平易の文章にて看病法の要點を記し人生必要の良書なり家々一本を備へ玉はゞ他日病人あるとき家內病人共に大利益を得たまふべし

日本婚姻之弊害

大島盛造君著
定價金十二錢五厘

此書は日本當今の婚姻にあまたの弊害あることをいと親切に論述したるものなり

女子必讀

正四位福羽美靜公題歌
從五位實吉安純先生閲
蒲生重章先生序
進藤直溫君編纂
傍訓(よりかなつき)插畫
三卷合本洋書製 定價金五拾七錢
紙數三百〇四ページ 郵稅金拾錢

內訓、作法、治家、待客、育兒、飮食、庖廚、衣服、住居、睡眠、運動、浴湯、豫防、治病、看病、通計十五編七十三節四百八十二章此書は女子の讀易く解し易きを要するため總て文字に平假名を施し言また平易なりと雖も其旨の深く且高きは編者の尤も焦慮せらるゝ所なり故に上公候より下輿儓に至るの內室老媼小娘に論なく凡て女子たる者の必ず讀べき書なるのみならず一男子も見て以て益を受ることまた疑を容ざるべし實に各家に一本を備ふべき最良書なりと云爾

出版人 神田區裏神保町三番地寄寓 進藤直溫

右二書發兌所

馬喰町二丁目 島村利助

●看官中の注文は女學雜誌社にて取次ぎの勞を辭せず●

定價

一冊。五錢 郵稅。一錢 (但府內無郵稅)
十冊。四十八錢郵稅。十錢 (同前)
廿冊。九十錢 郵稅。廿錢 (同前)
卅冊。一圓卅錢郵稅。卅錢 (同前)

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢 府外ハ十八錢
二ヶ月分同 三十錢 府外ハ三十六錢
三ヶ月分同 四十五錢 府外ハ五十四錢
半年分同 八十八錢 府外ハ一圓六錢
一年分同 一圓六十錢 府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行一回 (廿八字詰) 前金拾錢
同三回以上 一割引
同六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumichô, Hongô, Tôkyô.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 (大賣捌) 巖々堂
東京神田區雉子町 國々社支店
同 神田區佐柄木町 東海堂
同 日本橋區新葭町 良明堂
同 日本橋區馬喰町二丁目 自由堂
同 京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同 本郷區元富士町 盛春堂
同 本郷區春木町二丁目 解明堂
同 牛込區肴町 活神堂
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
東京芝西久保櫻川町 (支局) 萬春堂

發行所 本局 東京本郷弓町壹丁目廿番地 女學雜誌社
持主兼編輯人 巖本善治
印刷人 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY